# 序

古都奈良に押しよせる開発の波は最近その激しさをさらに増しており、豊かな文化財に恵まれた奈良の景観の変貌とともに、土地に刻まれた歴史も急速に失われようとしている。こうした状況のもとで、平城京内の発掘調査件数もうなぎ昇りに増加し、奈良国立文化財研究所もその調査研究に追われる現状の中にある。

このたび株式会社東鮓のレストラン新築にともない、同社の協力を得て当研究所が事前に発掘調査を行うはこびとなった。今回発掘調査した近鉄新大宮駅周辺は、新市街地として特に開発の進行している地域であり、近年の発掘調査によって平城京時代の様相も次第に明らかにされつつある一画である。調査地の東に隣接する特別史跡宮跡庭園をあげるまでもなく、平城京左京三条二坊にあたるこの地は、奈良時代において離宮や高級貴族の邸宅が建ち並ぶ一等地であったのである。

調査の成果は本書に記述してあるとおりで、坪全体の中に整然と配置された建物や塀の検出、地鎮の壺の出土など、左京三条二坊における邸宅のあり方についてさらに知見を豊富にすることができた。今後の周辺地域における調査の進展を得て、古代平城京の様相がより具体的に明らかになることを望む次第である。

1984年6月

奈良国立文化財研究所長

坪井清足